

海辺の集落に受け継がれる数々の伝承を訪ねて

南伊勢町 神前浦

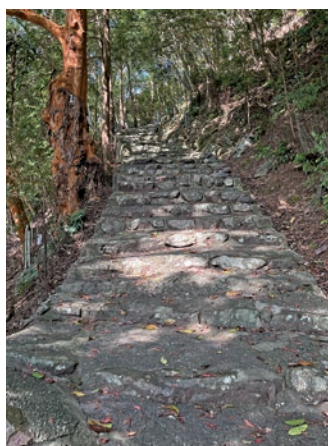
熊野灘の紺碧の海が眼前に広がる神前浦。氏神の仙宮神社を中心に、倭姫命の言い伝えや黄金の仏像を戴いたクジラの民話など、地域にさまざまな説が語り継がれています。

神前浦という地名は「神様から見て前にある集落」という、倭姫命の巡行に由来し、天照大神の鎮座地を求める旅の途中、命はここで休憩をとったといわれています。

また南伊勢町には「竈」と名付く地名が八つあります。これは平家の落人が住み着いた地で、人々は地元の漁師と争わないよう、塩を作って生活したそうです。源氏はこの平家を見張る監視人を派遣。その役目は仙宮神社の神主家が担ってきたと伝わっています。

今回はそんな古くからの歴史があちこちに点在する、風情ある漁師町をめぐるります。

取材・文：中村元美



本殿へ続く石段の参道

365段登った山頂に 仙宮神社の本殿と磐座

今回の散策は南伊勢町宮バスに乗り、バス停「河内」から始まります。車の場合「南伊勢町役場南島庁舎」駐車場を利用すると便利です。

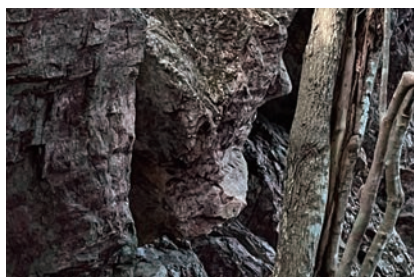
バス停から徒歩10分、神前浦・村山・伊勢地・河内の4集落からなる吉津地区の氏神にあたる、仙宮神社が最初のスポットです。本殿は標高70メートルの山頂にあり、鳥居をくぐると石段が続き、その数は365段。ここを加藤宮司の案内で登ります。正月の祭典のときは、1日に何往復もすることがあるようです。神域は



仙宮神社の本殿



山の頂に巨岩群



猿の横顔をした「猿神石」

木々に覆われ、バクチノキやイスノキなど珍しい樹木には説明文が添えられています。

本殿にたどり着くと、周囲には無数の玉石が敷き詰められています。これは昔から地元の漁師が大漁と安全を祈って浜から拾い上げ、ここに奉納したものだそうです。「主神には猿田彦命をお祀りしていますが、ここは『天照皇大神御降臨記』に記されている志摩国多古志宮の旧跡地で、伊勢神宮外宮の流れを汲む『度会神道』と関係がある神社です」と加藤宮司。お参りをすませると、本殿脇か

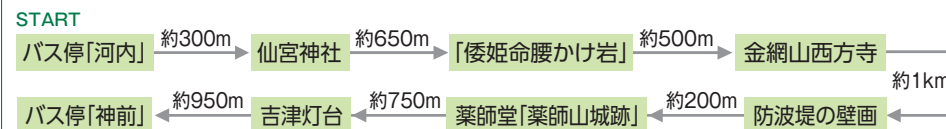
ら背後へと案内されました。そこはいくつもの巨岩が突出した荒々しい岩山で、昔はこの山自体が御神体として崇められていたようです。「磐座信仰です。巨岩群のまわりからは子持ち勾玉や土器片など、古代の祭祀に使われたのではないかと考えられる遺物が出土しています」。巨石のひとつ「猿神石」も見逃せないスポットです。その名の通り猿の横顔に見えますが、祀られているのが猿田彦命とあって、御祭神が岩となって姿を現し、見つめる方向にある吉津地区を守ってくれているといわれています。



神前浦出身で南伊勢町防災安全課の浜地智視(ともみ)さんと仙宮神社宮司の加藤 實(みのる)さんに案内していただきました。



■ 行程図 所要時間／約2時間 ※所要時間は、おおよその目安です。



本殿左隣には絵馬殿があり、神話の天の岩戸開きを描いた絵画や百人一首の額が奉納されていて、人々の信仰の篤さが伺えます。



絵馬殿に掛かる神話の絵画

二千年前の伝承と海にまつわる民話

神社を後にし、次は「倭姫命腰かけ岩」と向かいます。第11代垂仁天皇の皇女である倭姫命が、天照大神の御鎮座の地を探す旅の途中、疲れを癒そうと腰を下ろして束の間の休息をとった場所とされ、その伝承を示す石碑の裏側に、椅子のような小さな岩が置かれています。



「倭姫命腰かけ岩」

西方寺まで国道沿いを歩きます。道向こうは奈津の浜で、西方寺は通称「奈津の観音さん」。厄除けの観音堂として親しまれ、クジラの民話が伝わっています。昔、小さな黄金の仏像を頭に戴いたクジラが出現し、その仏像を地元の漁師が網ですくい上げると、海が黄金色に染まり、クジラはみるみるうちに岩と化したという話です。その黄金の仏像を祀りお堂がつくられたことですが、その仏像は聖武天皇に献進され、その代わりに頂いた聖観音像が祀られています。「国道が出来るまで寺は海に面して建って



山裾にある西方寺



西方寺の本尊、聖観音像

いたんです。観音さんも海を向いています」と加藤宮司。敷地内には観音地蔵をめぐるコースもつくられています。

ここで加藤宮司とお別れし、さらに国道を進んでいくと、神前浦の漁港が見えてきました。



国道ができる前の西方寺※

風情ある漁師町の防波堤を彩る壁画

エビ網、定置網、真鯛の養殖などが営まれる漁村で、近年は「伊勢まぐろ」の養殖も盛んです。漁港沿いを歩くと、色鮮やかな防波堤の壁画に目を奪われます。愛知県出身のアーティスト長尾洋さんが、南伊勢町の「調和と教え」をコンセプトに描いた作品です。最初は2019



防波堤を彩る壁画

年に、神前浦の「御船祭」に使われる船底の柄、伊勢神宮へ奉納される伊勢海老、神話の三つの龍、舞い飛ぶトンビ、潮騒に朝日が昇る景色や特産物のミカン、ハマボウの花、さらに波や雷がテキスタイルとなつて、自然とその脅威を表現しました。さらに2022年に拡張され、横50メートルの大きな壁画となり、まち全体の魅力が一つのアート作品となり、インスタ映えのスポットとして注目されています。「この中にハートが隠されています。じっくり眺めて見つけてください」と浜地さん。

神前浦の集落の中へ進むと、狭い路地はまるで迷路のよう。「呉服屋、おもちゃ屋、多くの商店が並んでいて神前浦にはなんでもありました」と浜地さんが言うように、その名残が伺えます。集落の小高い丘にあるのが薬師



薬師堂「薬師山城跡」

問 南伊勢町役場 南島庁舎総合窓口
TEL 0596-177-0001



船舶の安全を守る吉津灯台

堂「薬師山城跡」で、中世の山城跡です。かつて南朝方の武士団であった加藤氏の居城だったと伝えられ、家々が見渡せる静かな場所です。周囲には立派な石垣が残ります。

再び堤防に出て海岸沿いに進み、行き止まりを右へと入り登り坂を進みます。山頂付近に神前湾を見下ろす東屋があり、そこから先に吉津灯台が立っています。白い六角形で、タイル貼りのモダンな意匠。かつては灯台守りの人が暮らす建物もあったようです。

神前浦の雄大な海に癒され、まちの歴史に触れる時間が楽しめます。

*バスは本数が限られていますのでご注意ください。